

今冬の電力需給実績について

2018年03月27日
北陸電力株式会社

当社は、今冬の当社エリアにおける電力需給実績について取りまとめましたので、お知らせいたします。

当社は、志賀原子力発電所の運転停止が継続する厳しい需給状況の中、安定供給の確保に努めてまいりました。

今冬の需給については、気温の低下により暖房需要が増加したことなどから、一時的に予備率が低下する局面もありましたが、供給力確保に努めたことなどにより、結果として安定した電気をお届けすることができました。

今後も気温影響や大型電源のトラブルなどの不確定要素を考慮すると、厳しい需給状況となるため、当社としては電気設備の保守点検を確実に実施する等、引き続き電力の安定供給に努めてまいります。

お客さまにおかれましては、電気の効率的なご使用にご協力を賜り厚く御礼申し上げますとともに、引き続き、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

以 上

別紙：今冬の北陸エリア電力需給実績の概要

今冬の北陸エリア電力需給実績の概要

2018年3月27日
北陸電力株式会社

1. 今冬の需給バランス

- 今冬(12~2月)の北陸エリアの最大電力は、1月25日(木)9時~10時の541万kW。
- 1月は気温の低下による暖房需要の増加などにより、冬季の最大電力を3回更新。
(冬季最大電力更新日:1/11(木)、1/24(水)、1/25(木))
- 供給面では、水力発電の増加や他社からの受電等により、同日の供給力は611万kWと、当初見通しより42万kW上回り、12.8%の予備率を確保。

[万kW]

	1月見通し	最大電力発生日 1/25 (木) 実績	予備率最小日 1/30 (火) 実績
供給力	569	611	553
最大電力	512	541	523
予備力	58	69	30
予備率	11.3%	12.8%	5.7%

※ 見通しは平成29年度供給計画値を基に厳寒による需要増を考慮

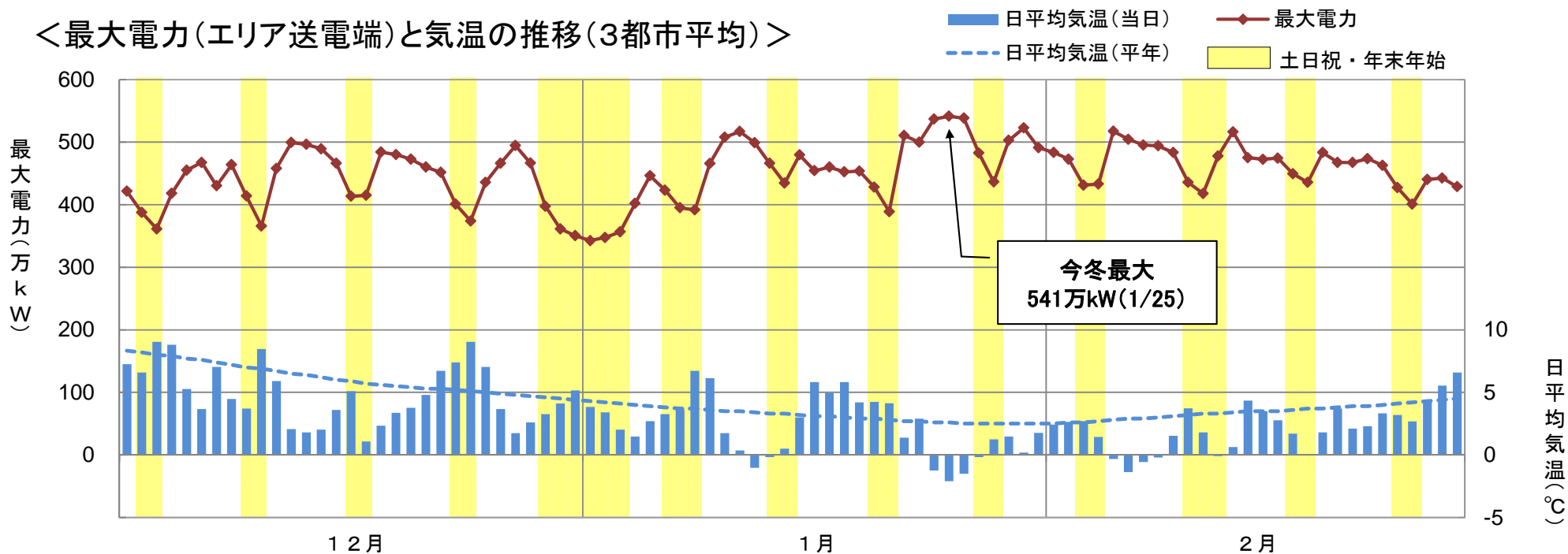
※ 実績については一部推計値含む

※ 四捨五入の関係で合計が合わないことがある

2. 最大電力および気温の推移 (12月~2月)

- 今冬は冬型の気圧配置となることが多く、気温は12月、1月、2月ともに平年に比べて低かった。
- 降雪量については、12月は平年並み、1月、2月はともに平年に比べて多かった。
- 電力需要については、暖房設備が高稼働したことや積雪に伴う融雪装置等の稼働により、想定需要を上回る日が発生した。

<最大電力(エリア送電端)と気温の推移(3都市平均)>



<気象状況(富山・金沢・福井の3都市平均)>

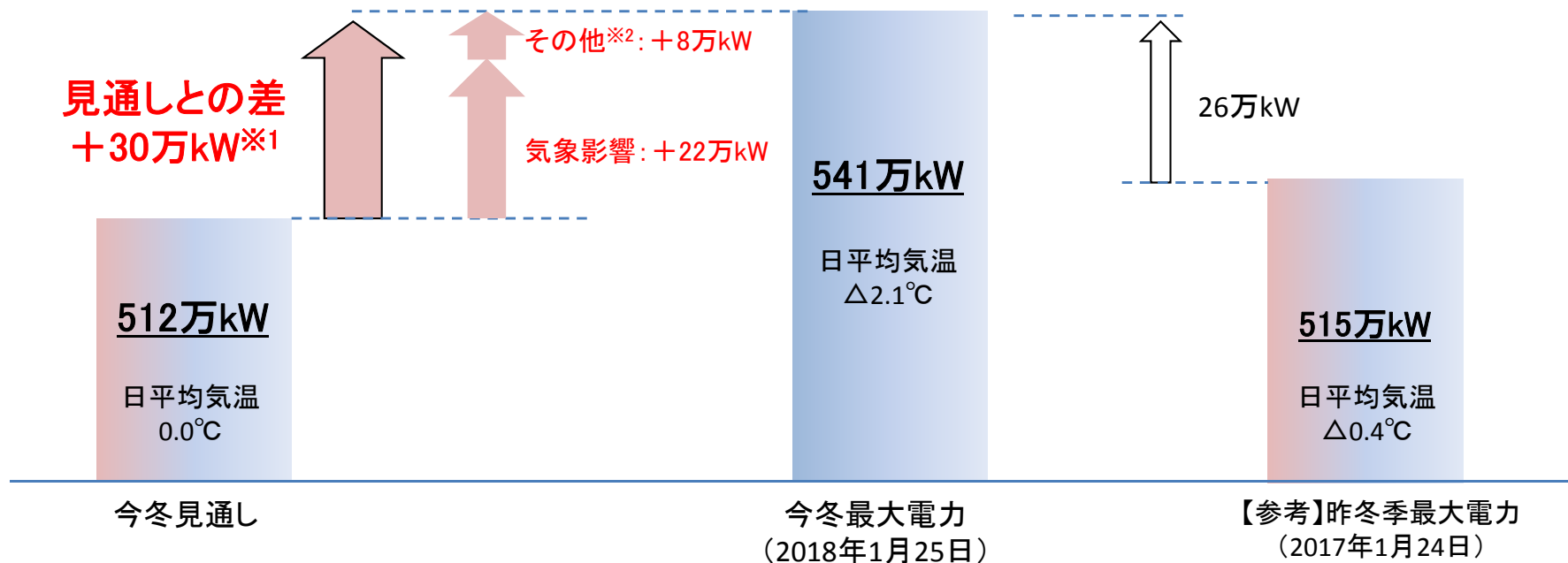
()内は平年との差

	日平均気温[°C]			降雪量[cm]		
	12月	1月	2月	12月	1月	2月
2017年度	4.9(▲1.2)	2.3(▲0.9)	2.2(▲1.3)	48.7(3.4)	160.3(26.3)	166.3(63.3)
2016年度	7.4	3.8	3.9	9.7	63.3	44.0
平年	6.1	3.2	3.5	45.3	134.0	103.0

3. 今冬最大電力実績と見通しとの比較

- 今冬の見通しでは、2016年度並みの厳寒(日平均気温0.0℃)となった場合の最大電力を512万kWと想定。1月はそれを更に下回る気温となったことから最大電力実績は541万kWとなり、見通しを30万kW程度上回った。
- 差異の内訳は、気象影響分が+22万kW程度、その他(経済影響、節電影響等)が+8万kW程度と推定。

<今冬最大電力実績と見通しとの比較>



※1: 四捨五入の関係で合計が合わない
※2: その他は経済影響、節電影響等

4. 最大電力発生日（1/25）の状況

- 今冬の最大電力発生日に予備率が12.8%確保できたのは、電源設備に大きなトラブルがなく、出水による水力発電量の増加や計画的に他社から電力を調達できたことによるもの。
- 仮にこれらの供給力の上積みがなかった場合や、大型電源がトラブルで停止した場合には、厳しい需給状況となることが想定された。
- 以上のことから、志賀原子力発電所が停止している中、気温影響や大型電源のトラブルなどの不確定要素を考慮すると、今冬においても厳しい需給状況であった。

■供給力の上積みがなかった場合の需給状況(1/25)

[万kW]

	1月想定 (供給力の上積みがなかった場合)	1/25 (木) 実績
供給力 (想定)	534	611
最大電力(実績)	541	541
予備力	△7	69
予備率	△1.3%	12.8%

以 上

